

## 姫路市商工会管内地域経済動向調査報告

(2023年3月値・要約版)

本調査は、姫路市商工会管内が、兵庫県及び全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しており、姫路市商工会HPで公開している。

経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的に広く管内事業者等に周知するとともに、経営指導員等が巡回指導を行う際の参考資料とする。

※本調査報告内に表記される「姫路市」とは原則「姫路市商工会管内(夢前町、安富町、香寺町、家島町)」を指す

(出展:小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、姫路市商工会景況調査、他)

<用語説明> DI値 = 「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す

例. 調査事業所数 10、「好転」事業所数 2、「変化なし」事業者数 4、「悪化」事業所数 4 の場合

好転:  $+25\% \times 2 = +50\%$ 、悪化:  $-25\% \times 4 = -100\%$  差引:  $-50\%$  が DI 値となる

### 産業全体の景気動向の推移

#### <概要>

2023年1-3月期の調査結果は、全産業のDIがいずれも改善はしたものの、さほど大きな変化ではない。新型コロナウイルス感染症の第6波と時期が重なる1年前から、前期比較の微増・微減繰り返すことから、ここ1年間の景況はやや足踏み状態にあると考えられる。

経営上の問題点としては、引き続きコスト面をあげる経営者が多数を占める。加えて、今回は、製造業・商業・サービス業の3分野で原材料費や人件費以外の経費増加を問題点として指摘する割合が増えているのが特徴的で、中小企業の経営者が様々な面からのコスト増に苦慮している現状がうかがえる。

今回の調査結果は、中小企業の景況が引き続き停滞気味であることを示しているが、最新の日銀短観(2023年3月)の調査結果によると、中小企業の業況判断DIは「先行き」に関しても特に非製造業での悪化が見込まれており、物価上昇などを背景としたコスト増、それに伴う需要減などが懸念されている。今後も引き続き中小企業に対する支援、サポート体制の強化・継続が望まれる。

#### <地域別>

##### 【全国】

2023年1-3月期の全産業の業況判断DIは、▲23.3(前月差6.6pt増)となり、前月から改善した。

製造業の業況判断DIは、▲24.3(前月差7.8pt増)となり、前月から改善した。

建設業の業況判断DIは、▲25.0(前月差0.7pt増)となり、前月から改善した。

商業の業況判断DIは、▲31.2(前月差8.7pt増)となり、前月から改善した。

サービス業の業況判断DIは、▲12.5(前月差9.3pt増)となり、前月から改善した。

全DIが改善したが、需要が活性化していてもコスト高騰が採算を圧迫。また、人不足の深刻化等、懸念事項は少なくない。

##### 【兵庫県】

企業の業況判断は、足もと改善し、先行きは悪化すると見込んでいる。個人消費は、持ち直している。

輸出は増加し、設備投資は減少計画にあるものの堅調である。

生産は持ち直しの動きとなっている。

有効求人倍率は、前月を下回った。雇用者所得は弱めの動きとなっている。

倒産件数は、前年を上回った。

## 【姫路市商工会管内】

姫路市の業況は、▲8.0 となり全国 DI(▲23.3)、兵庫県 DI(▲27.6)と比較すると、最も高く、その差は大きい。

売上高は、▲6.0 であり、全国DI(6.1)、兵庫県DI(▲3.0)と比較すると最も低い。

採算状況は、▲34.0 で、全国DI(▲41.0)・兵庫県DI(▲34.3)と比較すると概ね同程度である

資金繰りは、▲32.0 で全国 DI(▲32.7)と比較すると大きな差は無いが、兵庫県 DI(▲13.2)と比較すると大きな差がある。

姫路市商工会独自調査における代表的なコメントを以下に記す。

(商業 小売、卸売等)

- ・3月是在庫が無くなる程に売れていたが、個人消費が落ち込んでいるせいか売れ行きが悪い
- ・客足が増えている影響で売上は伸びているが、仕入単価が全体的に上がっており利益が出にくい

(建設業)

- ・資材搬入の遅れや施工現場繁忙の影響等で工事開始時期が大幅にずれ込むが、人手不足であり段取り替えに伴う人員体制の再構成がままならない。
- ・資材不足や人手不足により工期が延びた場合、工事完了までの資金繰りが苦しい

(サービス業)

- ・主要顧客の高齢化により来店客数が減少。新規顧客獲得も困難である。
- ・仕入単価が高騰

(製造業)

- ・顧客の代替わり等で、求められる加工等も変わってきている。

## <業種別業況>

全国的な産業全体の業況は、ウィズコロナに向けた人流の増加から、全 DI が改善し、2期連続の改善となった。マスク着用義務がなくなり、催し等が制限なく開催され始めたことや、インバウンド需要が景況感を上向かせた。一方で、需要が活性化していても、コスト高騰が採算を圧迫し続けており、コロナ禍で膨らんだ借入の返済や、人手不足の深刻化等、依然として小規模事業者を取り巻く環境は厳しく、持ち直しの動きは鈍い。

## <総括コメント>

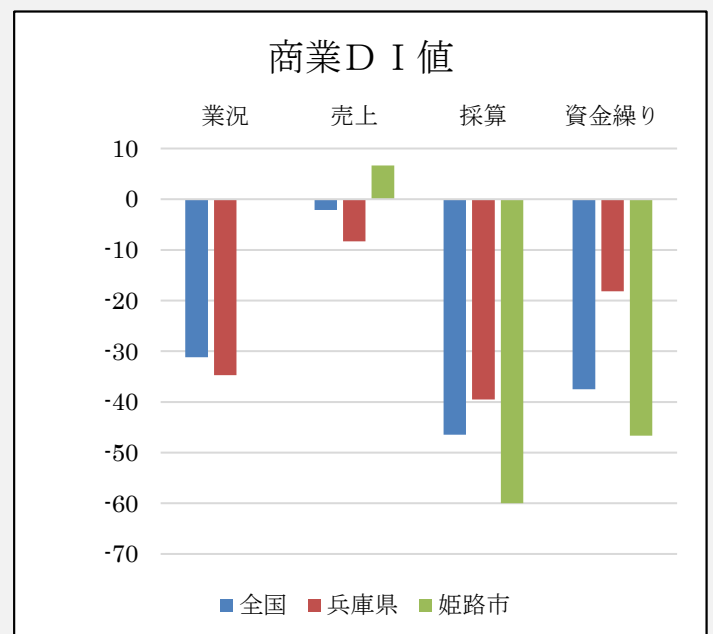
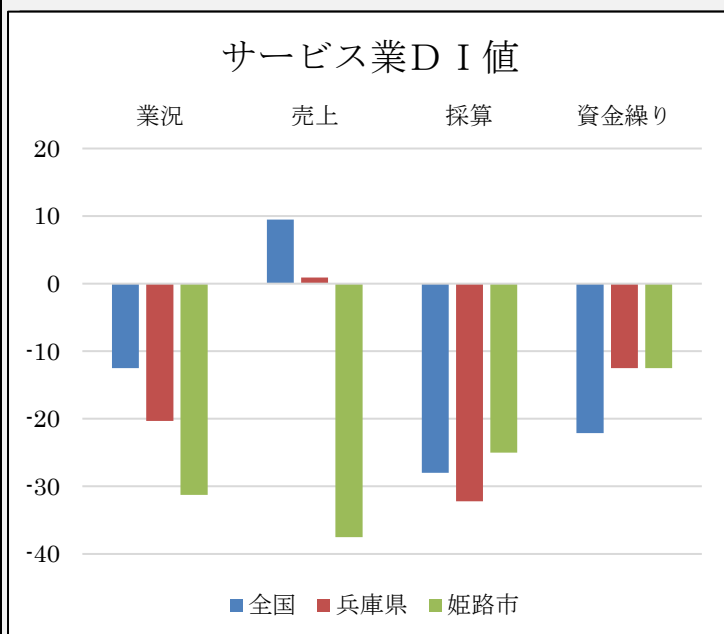
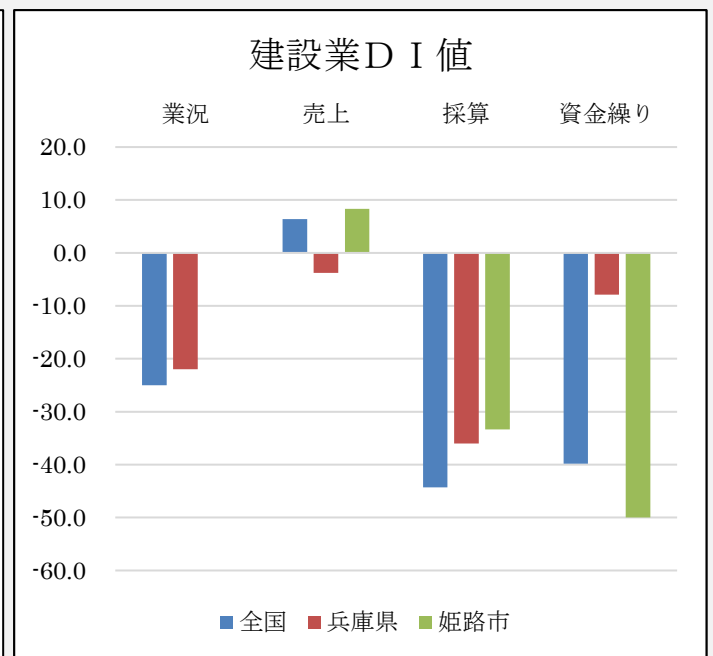
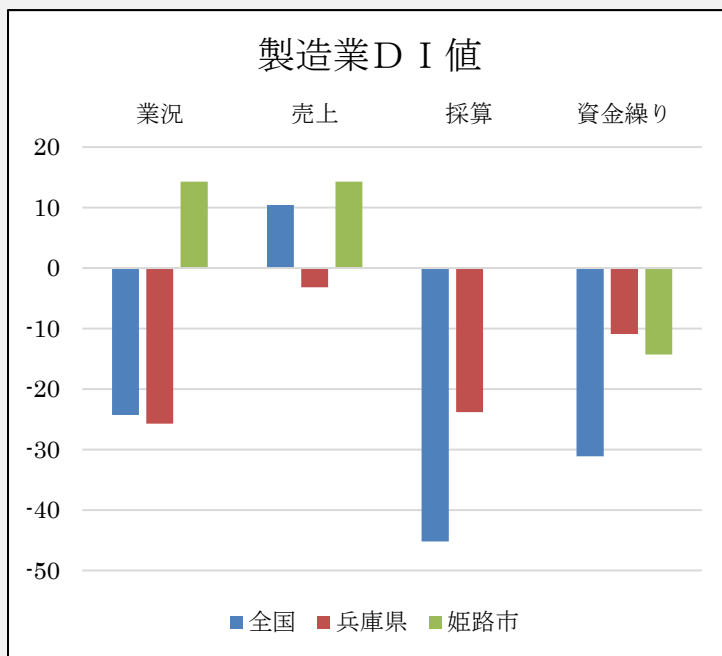
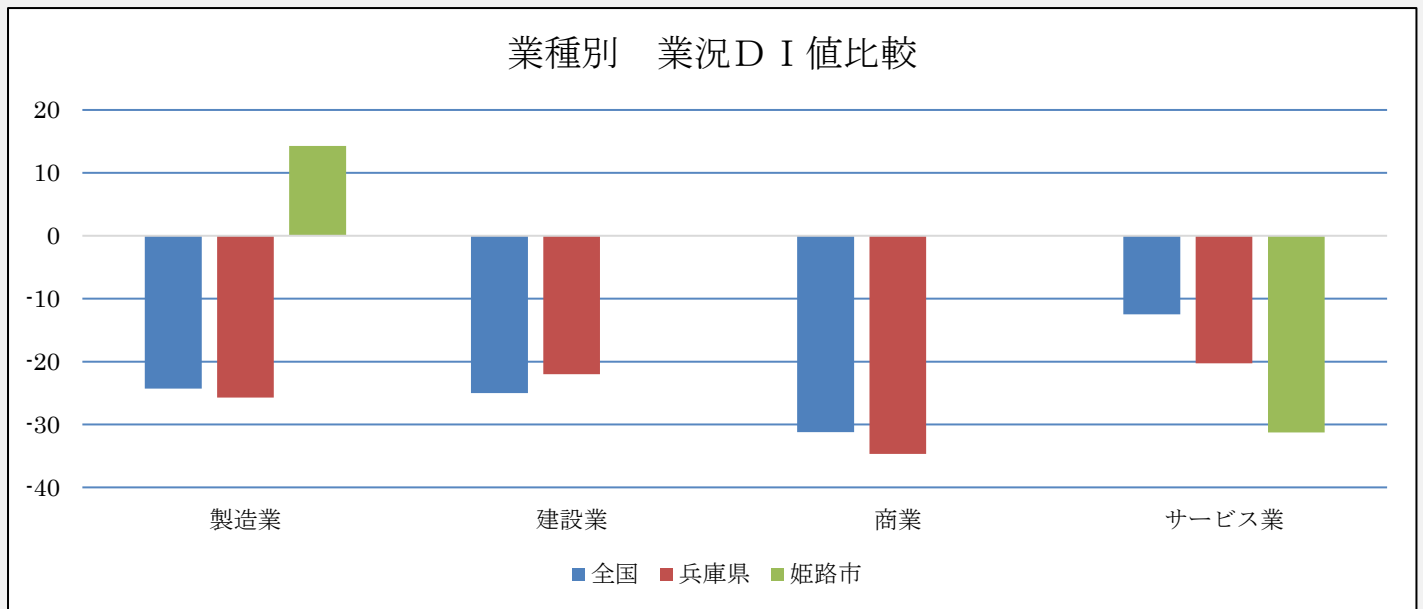
国内景気は、一部に弱さが見られるものの、緩やかに持ち直している。

先行きについては、ウィズコロナの下で各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引き締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。

また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染動向に十分注意する必要がある。

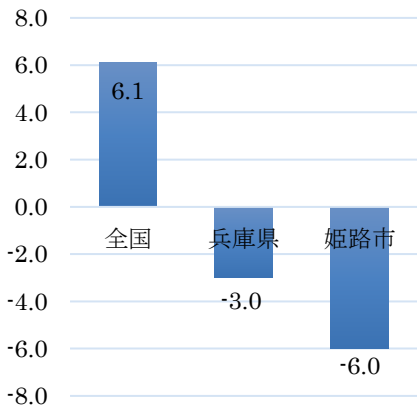
姫路市においては、ウィズコロナに伴う、人流回復の影響を受け、客足が戻りつつあり売上が回復傾向にあると見受けられる。その反面、物価高・人手不足対応への影響によるコスト高から生じる利益面への不安の声は多い。その対策のためにも、政府の経済対策(持続化補助金・事業再構築補助金等)の活用や DX 推進を図る等して、事業継続への取り組みを引き続き積極的に行う必要がある。

# 業種別 DI 比較グラフ

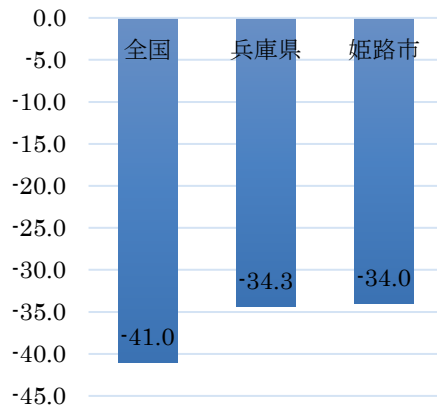


## 全業種 DI 比較

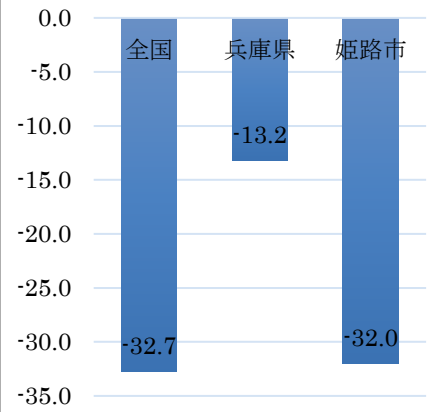
### 売上DI値



### 採算DI値



### 資金繰りDI値



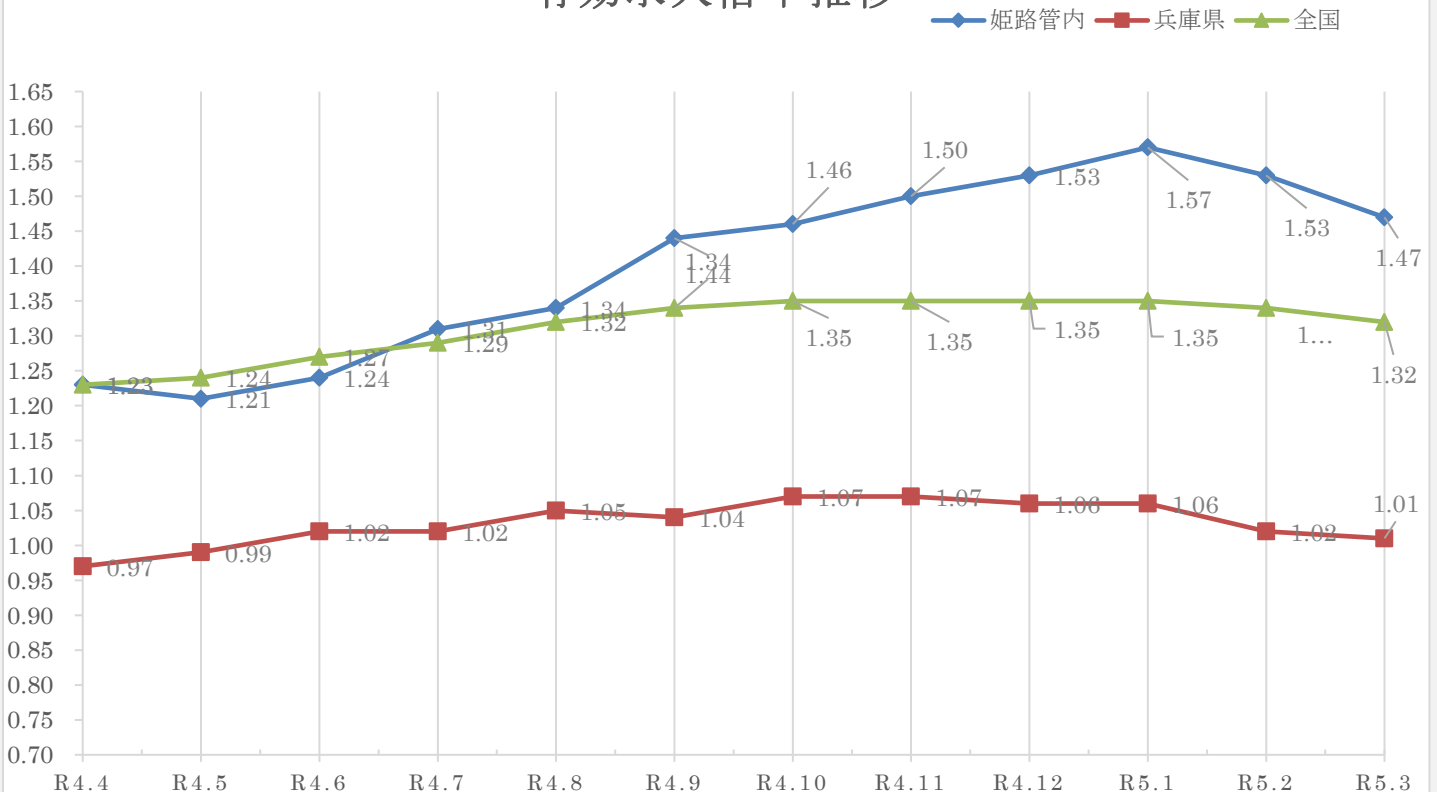
## 管内の雇用情勢

〈用語説明〉有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数 例. 求人案件が 20 件 求人応募者 10 人 なら 2.0 倍  
 令和5年3月期の有効求人倍率は、全国 1.35 倍、兵庫県 1.06 倍、姫路管内 1.53 倍となっている。  
 令和4年4月から1年間の推移を見ると、全国においてもほぼ横ばい傾向であるものの、緩やかな改善が見られる。兵庫県と姫路市もほぼ同様傾向である。

物価高などを背景に転職に慎重になる動きも続いたが、海外需要の先行きの不透明感などを背景に、製造業を中心として採用に慎重になる企業の動きが表れた。

兵庫労働局は足元の雇用情勢についての判断を据え置き「求人が求職を上回っているものの、持ち直しの動きにやや弱さが見られる」との見方を2カ月連続で示した。

## 有効求人倍率推移



▲全国・兵庫県・姫路市(ハローワーク姫路管内)直近1年間の有効求人倍率推移比較